

琉球大学学術リポジトリ

牛の乳房炎の予防と手当

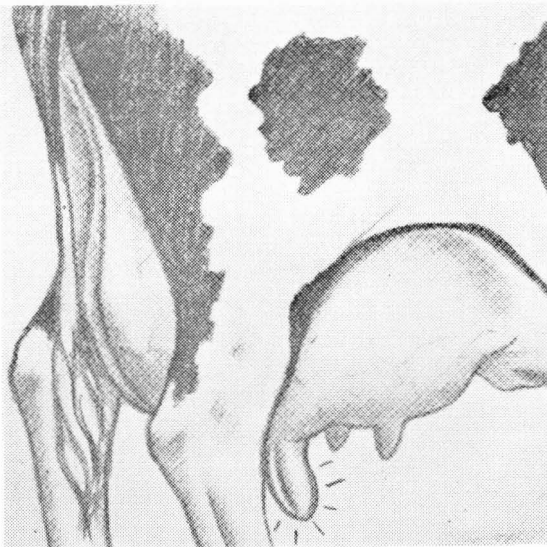
メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮城, 正夫, Miyagi, Masao メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20628

牛の乳房炎の 予 防 と 手 当

アメリカ合衆国アイオワ州立大学の普及用パンフレットによると同州中部地区で乳牛の60%について調査したところ其の35%が乳房炎に罹っていたという⁹。沖繩は現在729頭の乳牛がいるが、私が昨年中中部北部の一部農家で調査したところ40%以上の病牛（今まで発病した経験をもつもの）がいることがわかった。

1. 発病した乳房の症状

ある牛の乳房は熱をもち腫脹し、いたがる。乳汁に糸くず様のもの（凝固物）が多く、どろどろで血液を混ざる（第一図）。又ある乳房炎では乳房、乳汁に大きな変化を現わさない、しかし乳量は少なくて水っぽくなりよく他の牛へ伝染させる。この種の牛は実験室で細菌検査をしなければ乳房炎の決定は出来ない。これは慢性に経過した場合にこの実例を見受ける。

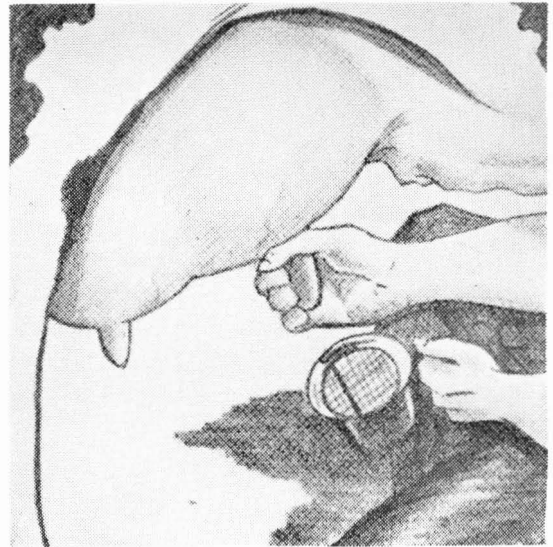


乳房炎のため腫脹した乳房と乳頭

2. 乳房炎の診断

多くの場合搾り始めの乳を布でこするとそれに糸くず様のものやべとべとした塊が残る（第2図）、然し乳房炎であつて糸くず様のもの（凝固物）が現われたり、又時には全く現われなかったり症状の不規則なものもある。

次に乳房をもんで見る（第2図）、これは乳房組織を診断する方法としてよい。特に今罹っていないでも前に罹つたことのあるものはこの方法で容易に診断される。現に罹っているものは勿論乳房の緊張、硬さ、腫脹などで簡単に見分けがつく、其の際四分房を比較しながら観察するとわかり易い。治癒出来なかった分房では乳房が萎縮し乳頭口は狭小になり最後には全く閉鎖して所謂「つんぼ」になる（第4図）、それは腺組織（乳を出す細胞の集り）が結合組織（きづのはんこん）に置き換えられ



各乳頭より乳をコップに受ける



乳房炎に罹った乳房は触診によってわかる

るからで乳は一滴も出さない。健康な乳房をつかんだ感覚はやわらかで、弾力性がありスポンジのようなものであるが、結合組織化した場合は肉にさわつたようで硬く弾力性は全く感じられない。

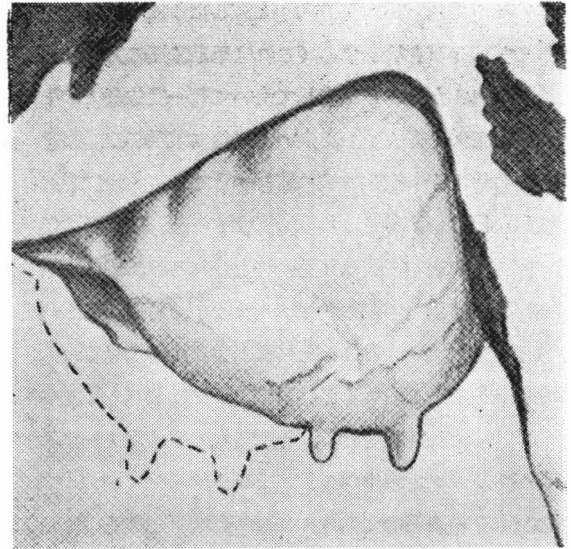
3. 乳房炎の原因

乳房炎の原因となる細菌は17種類もあるといわれる。各細菌は其の伝染力や治療薬に対する抵抗性に大きな差異があると考えられる。しばしば発見される細菌はレンサ球菌とブドウ球菌である。この2種の細菌は現在乳房炎にかかつていない健康な乳牛の乳からも発見される。前記2種の細菌の他大腸菌による乳房炎を私は琉大農場で経験したがこれは稀な例でそれ以外の細菌、例えば結核菌などの例は極めて稀である。

4. 乳房炎の予防

乳房炎の予防には衛生と管理、そして手当時の細心の注意、三つの面から対策がたてられねばならない。

1. 搾乳の順序 飼育牛の中に乳房炎が発症したら搾乳の順序としてまず健康牛を先にし、又健康牛に使う拭きタオル、搾乳バケツ等は発病のものとは厳に区別しなけ



乳房炎の結果「つんぼ」になった乳房

ればならない。発病のものは最後に搾り、その乳は特定のバケツ（はつきりした目印をつける）に入れ速に廃棄する。

2. 搾乳の操作 搾乳の際各牛毎に清潔なタオルで微温湯を用いてふく、微温湯には消毒液、例えばクロルカルキ(サラン粉)を0.2%の割合に入れる。次いで搾り始めの乳をコップにとり(第2図)、凝固物などを検査する。搾乳者は各牛毎に手を消毒液、例へばクレゾール石鹼液の0.5%溶液やハイアミン液(陽性石鹼液)400倍液に浸けた後清潔な水で消毒液を洗い流し各牛間の伝染を防ぐように心掛ける。

3. 外創の予防 乳房炎の細菌は多くの場合乳頭口から侵入するが乳房、特に乳頭の創口から侵入することもあるので注意を要する。その対策として畜舎、床面の乾燥、廊下や牛の出入口で牛が滑らないように施設する他牧場が雨でぬからないよう、又木片、石塊の牛付けなど細心の注意を要する。又蹄が伸びて牛が起立する時、それで乳頭を踏み創つける(第5図)、ことがしばしばあるから削蹄を怠らないように、若し創を発見したら直ぐホーサン軟膏等を塗布し早や創口を治さねばならない。

5. 乳房炎の手当 乳房炎が発症したら先ずBTB試験紙で乳のpHを検査する(これは早期診断の方法として推奨されるから常時準備しておいて週一度位全ての牛に応用しておくといふ)。次いで早急に獣医師の診察を受けることで素人療法は厳に慎むべきである。治療方針は先づ原因の細菌を乳汁から検出すること、細菌の種類によってそれを滅殺する薬品が決定されるが、琉球家畜衛生試験場に依頼すればやってくれる。薬品の決定がなされると方針は確立され、それによつて治癒は早く、大きな損害を被ることなく乳は早期に正常に還り、又他へ伝染することは防止される。或る種の薬品はサルファ剤、ペニシリン、ストマイ、オーレオマイシン等いくつかの薬品を組合わせて造られておる。単一の薬品で乳房炎細菌を滅殺することは今のところ不可能とされている。タルゴット軟膏、オーレオマイシン乳房炎軟膏は現在広く用いられているが評判がよい。しかし少数の細菌はこれ等の総ての薬品に抵抗する(所謂耐性菌)ので治癒に極めて長い日時と経費を要する。

6分挽直後の乳房炎 分べん直後1~2日間に本症に罹

る場合が極めて多い。特に乳牛に経験が浅いとその心配がある。分べん直後の搾乳について注意されねばならない点は乳房のむくみ(所謂しこり)を早くとり除けることで、それには蒸しタオルでよく乳房をマッサージして乳を搾り切るよう努める。勿論完全に搾り切るには日数を要するし、あのぼう大な乳房をもみほぐすのにはなかなか辛抱がいる。このように搾乳が完全に行かないところに細菌の繁殖、増数があり乳房炎を起す結果となる。要は早くその「しこり」を解くことですが、能力の高い牛特に初産牛はなかなか簡単に行かない。私共は「しこり」を早くとる方法としてイクタモールを適當の水で薄めておいて蒸しタオルでマッサージして血液の循環をよくした乳房に擦り込んでいるが好結果を取めている。しかしこれは4~5日も続く所謂薬まけで其処に熱を持つから2~3日の程度に止める。もし薬まけが治つたらホーサン軟膏等で保護する。又分べん初日初乳を搾り切つてから各乳頭にタルゴット軟膏を注入しているが、乳房予防に大きな効果を取めている。

(宮城 正夫)

取木、挿木法

3. 取木法

木本類やツル性の植物の繁殖に用いられる方法で、母木から切り離される前までに発根させ、既に完全な一個の植物体としての形態を具えるように処理する方法である。

古来、最も広く採用されてきた方法は伏せ取り方法で、地面に近く横に伸びている枝を押し曲げて地面に伏せその上に土をおく方法である。発根を認めたら枝を切り離して独立の個体として養成する。短い枝からは1本しかとれないが、長い枝やツル性の植物は節々から

新しい芽が出て、それらが充実した時、各々を分離して養成することができる。伏せ取り法では伏せられた枝の土中に入る部分でしかも幹に近い部分に輪状に皮をむくか、枝の土中で下になる部分に枝の直径の半分位、元の方から先端に向つて3cmの長さになり切り込むと発根を促進することができる。この方法でクチナシ、ツルバラなどが繁殖できる。

高取法は枝を自由に曲げることができない時、適當な長さの枝を選んで基部を環状に剥皮し、その部分が大体中間になるように竹の皮かビニール、ポリエチレンなど